

## 学習計画（シラバス）

教科	科目	対象学年	単位数	教科書 著書・発行所	使用教材・発行所
公民	公共	2	2	公共 新訂版 共につくる未来 桐山孝信 ほか9名（実教出版）	クローズアップ公共2026 （第一学習社）
指導の重点	1 様々な資料から必要な情報を効果的に取り出し、分析してまとめる力を身に付ける。 2 社会の諸課題に対して、事実を多面的かつ多角的に考察し、論理的に解決策を構築する態度を養う。 3 平和、人権、民主主義といった価値観を大切にする姿勢を涵養するとともに、自らが社会の一員として、よりよい社会の実現に向けて参画していこうとする姿勢を養う。				
評価の観点	知識・技能	基本的な用語を理解し、それらを用いて社会事象を説明している。			
	思考・判断・表現	複数の資料を比較し、事実を様々な視点からとらえて考察を加えている。			
	主体的に学習に取り組む態度	既習の事項を他の教科や科目と関連付けて学びを発展させ、協同して学習に取り組もうとしている。			
学習の評価	1 定期考査や課題テストで「知識・理解」「思考・判断・表現」を評価する。 2 授業中のペアワークやグループワーク、発表、提出レポート等で「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 3 課題提出で「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 4 上記の1～3で総合的に年間の評価を行う。				
学期	単元	学習内容		学習の目標	
1 学期	社会を作る私たち	青年期とは 自己形成の課題 職業生活と社会参加 伝統文化と私たち		自分自身の理解から人間や文化全般への理解につなげることができる。また職業を通じて経済活動への認識に発展させることができる。	
	人間としてよく生きる	古代ギリシャの人間観 科学と人間 自由の実現 社会を作る人間		先人の思想に触れ、その内容を理解するとともに、時代を超えた普遍的な価値観とは何かについて思いを巡らすことができる。	
	他者とともに生きる	人間と幸福 公正な社会を目指して		よりよい社会の実現に思いを巡らすとともに、他社の考え方に理解を示し、平和共存といった国際的なテーマへと敷衍させることができる。	
	民主社会の倫理	人間の尊厳と平等 自由・権利と責任・義務		人間の尊厳や人権などについて、基本的な概念の理解ができ、なおかつそれを発展させて考えることができる。	
2 学期	民主国家における基本原理	民主政治の成立・基本原理・しくみと課題 世界の主な政治制度		こんにちの国家や社会が形成された経緯を学び、その本質について理解することができる。	
	日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立・基本的性格 自由・平等に生きる権利 社会権と参政権・請求権 新しい人権 人権の広がり 公共の福祉 平和主義とわが国の安全 こんにちの防衛問題		大日本帝国憲法や現代の諸外国の憲法などと比較したうえで、日本国憲法の基本概念をとらえ、これを制定するまでに至った先人の苦労と努力について思いを巡らすことができる。	
	日本の政治機構と政治参加	政治機構と国会 行政権と行政機能の拡大 公正な裁判の保障 地方自治と住民福祉 政党政治 選挙制度 世論と政治参加		自立した社会の一員として意見が求められる具体的な主題を自ら立て、それについて深い考察をするとともに、他者と意見を活発に交換することができる。	
	現代の経済社会	経済主体と経済活動の意義 経済社会の変容 市場のしくみ 市場の失敗 現代の企業 国民所得 経済成長と国民福祉 金融の役割 日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本の財政の課題		雇用や労働問題を自らの問題として捉えながら、自立した経済活動の主体としての自己の役割を認識できる。あわせて様々な資料に基づく経済指標から現在の日本経済の実態を理解することができる。	
3 学期	日本経済の特質と国民生活	戦後日本経済の成長と課題 転機に立つ日本経済 経済社会の変化と中小企業 農業と食料問題 消費者問題 公害の防止と環境保全 労働問題と労働者の権利 こんにちの労働問題 社会保障の役割 社会保障制度の課題		資料から読み取られた日本経済の実態をもとに具体的な問題事例を多様な角度から考察し、自己の生き方と社会との関係において将来の展望を持つことができる。	
	国際政治の動向と課題	国際社会と国際法 国際連合と国際協力 こんにちの国際政治 人権・民族問題 軍拡競争から軍縮へ 国際平和と日本の課題		世界平和の維持というテーマを様々な観点から考察し、同時に世界の多様な民族・文化にまつわる問題を人権擁護の視点から見つめ直し、解決策を提起することができる。	
	国際経済の動向と課題	貿易と国際収支 外国為替市場のしくみ 第二次世界大戦後の国際経済 地域的経済統合の進展 国際経済のつながりと課題 発展途上国の諸課題と日本の役割		経済のグローバル化が進んでいることへの理解を深めるとともに、国際社会における貧困や格差の問題を世界平和の問題にも絡めて討議することができる。	
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	情報の収集 小論文の書き方 プレゼンテーション ディベート		既習事項を総合的に関連付けて論理的に説明することができる。	